

# ニッキン



BNPパリバG

## 社員の在宅CSR促進

### 700人で年2800時間達成へ

BNPパリバ・グループ(G)の日本法人5社は、CSR(企業の社会的責任)活動の2020年目標2800時間の達成に向けて、社内運動を強化している。コロナ禍でも在宅で取り組めるボランティア活動を社員に提案し、参加を促している。

5社の社員計約700人に、年間4時間程度CSR活動に取り組みことを呼びかけている。CSR休暇を利用し、語学力を生かした翻訳や字幕制作などにあてた時間を積み上げて達成を目指す。

社員が手書きし、図書カードとともに高校生に送った応援メッセージカード

新型コロナウイルスの感染拡大で対面や集団でのボランティア活動が難しいなか、NPO法人からニーズをヒアリング。9月には、教育支援を行うキッズドアを通じて生活に困窮する家庭の高校生400人を対象に一人3千円分の図書カードを送付。「ステキな本とめぐりあいますように」「さまざまなこと

にチャレンジして下さい」など社員が作成した応援メッセージカードを添えた。

年末にかけては、入院生活を送る小児がんの子供たちにハロウィンと正月で使う紙袋のデコレーションを各90袋作成。また、ベトナムで教育支援を行う海外NGO(非政府組織)が発行している洋書の翻訳作業などを予定。学校のオンライン授業が開始されるなか、耳の不自由な子供たち向けに授業動画の字幕制作にも取り組む。

社員の関心を高めるために、NPOと連携し、オンライン講演会を開催。BNPパリバ証券のブランド&コミュニケーション部の今村祐介マネージャーは、「社員に興味を持ってもらい、自分事化し率先して取り組んでいく仕組みにした」と意欲を示す。